

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.125

2010/04/11

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

中央湿原復元大詰め


 今月の保全作業域

10/04/04の中央湿原

保全作業日: 4月17日(土)(雨天の場合18日)

今年の3月は、近年希な気象異変が続き、雪解けから開始予定の中央湿原復元作業も遅れました。総会翌日に予定していた作業も霰が降るという事態に中止せざるを得ませんでした。



猛烈な霰の襲来で増水した沢とバイカオウレン(10/03/21)



刈り払いしたものの集積(10/03/22)

既報で度々「1960年代の人為的改変」と書いていますが、湿原が機械で大きく改変されたことは空中写真で明らかですが、その後どのように利用されたのかについては「芝栽培」と書くに止めてきました。その根拠は何処にあるかといふかる会員もおられるかも知れません。その証拠は復元した北部湿原の東側及び北側・中央湿原の西側の山地との境界部分で見ることができます。コースの展望場上の平坦面にもその痕跡が残っています。植栽されて既に30年以上が経過しているにも関わらず、芝が残っていることは生態系の復元が如何に難しいかをも物語っています。侵入植物に神経質なほど気を配っているのも、こうした事実を見ると理解できます。お出かけの際は、こうした侵入植物(セイタカアワダチソウ・ワルナスビ・オオキンケイギク等々)を見たら除去して下さい。



北部湿原東側に残る芝(10/03/31)

生物多様性という流行語 本紙でも度々生物多様性の保全・COP10 とかの中で生物の多様性について書いているのだが、「山門水源の森」での生物多様性とは、どのように観ればいいのかを整理してみる必要があります。ただ漠然と「生物多様性の保全」と言ってみたところで、多様性が保全出来るわけでもない。ちなみに生物多様性条約加盟国数は、190 カ国（2008 年現在）。この条約に規定されている「生物の多様性」とは、**すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかんを問わない。）の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む**とある。このような多様性を山門水源の森で考えると、生物種が多いとか、生息環境が多様だとかの事実は認識し易いのだが、その歴史性がついつい見逃されがちである。少なくとも今日の山門水源の森（日本列島全体と考えてもいい）の生物群が現れる大きなイベントは、日本列島が大陸から分離した時期以降を考える必要があります。前川文夫著「植物の進化を探る」（1969 年）（岩波新書）に、日本の植物の起源は中新世に遡ると書かれていたように思う。この時代が、日本が大陸から分離する時代である。この時代の地層が鈴鹿山脈の稜線部に分布している『鈴鹿礫層』です。この礫層の堆積したのは今から 1800 万年前ということが編集子の調査で明らかになっています。この礫層と同じ時代に形成されたと考えられる礫層が山門水源の森にも分布（立派な露頭は、牧場への進入路沿いにあります）している。観察コースでは、ササユリの調査区周辺・南部湿原展望台上等で観られます。山門水源の森の生物が直接この時代を反映している証拠はありませんが、多様性を考えるという意味では念頭に置く必要のある事実です。直接的には、氷期以降の環境が影響していると考えていいのではないのでしょうか。それは、高原光氏のボーリング調査結果が直接的な証拠となります。また会員の笠原氏の最近の報告についても、今後直接的な証拠探しが必要だと思われます。このように「山門水源の森」の生物多様性を考える上で、地史的な観方が欠かせませんが、現実の生物の進化とか現況を観るという点では、『異常時』を観ることが重要ではないかと思われます。私たちは、得てして観察し易い日に出向きますが、生物の進化の過程では『異常時』が重要であることは明らかです。最近



中新世の礫層？（牧場側道路沿い）(06/04/20)

の成果としては、恐竜の絶滅は、やっぱり隕石の衝突を考えるべきという結論が出たように。「山門水源の森」に置き換えれば、大雪の時に生物はどうしているか、豪雨の時に森はどのような状態になっているのかを観ずに「山門水源の森」を語るとは避けるべきでしょう。通常時も異常時も観察することで、本当の意味での「山門水源の森」の自然を観たということになるのでしょうか。もっとも異常時に出かけることは、一寸した覚悟がいりますが、例えば、最もポピュラーな「サギソウ」ですが、通常栽培されるのは「鹿沼土」（通気性がよく、水も治がよい）が使われています。しかし、山門湿原では、泥炭であり積雪期や増水期には球根は完全に水没しています。湿原植物の多くが、このような環境で生息・分布していることを念頭に置いて、通常時の観察をする必要があります。



トクワカソウの大群落

トクワカソウ群落拡大中



開花直前のトクワカソウ

森のトクワカソウは、3 箇所分布しています。そのうち最も面積が広い群落は、これまでの保全作業の結果分布が拡大しています。しかし、写真撮影などで群落内へ入り込むと急斜面なため滑り易く、ランナーが切れたり、植

物そのものに落葉が覆い被さって枯れてしまいます。これを避けるために、分布域に入り込み禁止のロープを張りました。20 日迄くらいが観察の再適期です。例年のことですが、ユキバツバキも、再適期です。

山門老人会の皆さんから聞き取り調査 「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会の 10 年の歩み」を編集するにあたり、地域の方々から昔の山門湿原及び生活の実態を聞いておこうということになり、4 月 10 日山門老人会の方々の花見の宴にお邪魔して会員 5 名でいろいろなお話を聞きました。過去にも何回か話は聞きましたが、今回も新たな事実を聞くことが出来ました。



花見の宴で聞き取り (10/04/10)